

どこで

「なんのために」と「だれに」が決まれば、「どこで」実施することが効果的なのかを検討してみましょう。ここでは、「いつ」（P5参照）とも密接に関係するため、「いつ」と「どこで」は同時に検討しましょう。

検討するにあたっては、つぎの項目に注意しましょう。

1 安全面の確保について

地域のイベントがよく開催される場所で、死角になる場所がなく見渡すことができるところやガラス等危険な物が落ちていないところが良いでしょう。コンクリートより土の方が子どもたちは遊びやすく安全です。

また、地域の方がよく知っている場所であれば、誰でも気軽に足を運んでもらえ、イベントの効果も期待できます。

2 雨天時の対応について

雨天でも同日開催できるよう準備できていることが望ましいですが、場所等の都合で延期となる場合は、延期の日程も確保しておく必要があります。

- 雨天時の対応を決めましょう。
- 雨天でも開催するのか、延期して後日開催するのかを検討しましょう。
- 雨天時の開催場所や、いつの時点で雨天プログラムまたは延期を決定するかを決めます。（時間を決め、連絡網等を作成し連絡を回すようにする。）周知徹底するために、ホームページやメール、SNS等の活用も若い保護者向けに効果的であると考えられます。

3 会場の使用にあたって

借りる場所によっては、届出が必要な場合があります。必要かどうか施設等へ事前に確認し、余裕をもって届出を提出しましょう。（P16参照）



だれが

イベントを効果的に実施するにあたっては、企画者だけでは運営できません。企画段階は、少人数であっても、実施段階では、より多くのスタッフを集めて実施することが望ましいでしょう。

たとえば、主催団体を中心に、子供会やPTA、地域の子育て支援者などに声をかけたり、一般企業やNPOの協力を得たり、学生ボランティアを募集したりすることで、より多くのスタッフを集めることができます。さらに、地域の中でけがや病気に対応できる人に来てもらうと安心です。

スタッフ募集中！



◆ ワークショップ（意見交換会や交流会など）の企画

スタッフが集まってワークショップを開催し、地域のさまざまな関係各団体の関係者が直接意見を交わし話し合いをすることで、なぜ外遊びが必要なのかという外遊びの重要性を共通認識し、進めていくことができます。そうすることで、イベントの重要性や必要性を理解してもらうことができ、スタッフ同士の一体感や目的意識が生まれます。

「なんのために」（P4参照）をテーマにして、みんなで“ワイワイ”と“楽しく”話し合しましょう。

なにをどのように

ここでの検討が、最も重要で時間を要する部分です。

まず、このイベントを単独で行うのか、地域の他の行事と合わせて行うのかを検討しましょう。

1 単独で行うのか、地域の他の行事と合わせて行うのか

◆ 単独事業で開催する場合

- ・地域の各団体から実行委員を選び実行委員会を開催しましょう。
(核になる団体を決め実行委員長を選出します)

◆ 地域の他の行事と合わせて行う場合

- ・他の行事の実行委員会に参画しましょう。
(核になる団体を確認します)



2 具体的内容を企画する

次に、目的（ねらい）に沿って、参加者が楽しめる企画案を作成していきます。目的（ねらい）、対象者にあわせて具体的にどんな遊びが効果的なのかを検討しましょう。大人にも子どもたちにも参加して楽しんでもらうために、決まった内容を工夫し膨らませていけるようにしましょう。

◆ 遊びの内容を決める

中心となる対象者や実施する場所の広さに合わせて、遊びの内容を検討しましょう。

◆ 内容を膨らませていく工夫

同じ遊びでも、年齢に応じて変化させたり、異年齢で交わって遊ぶことができるようルールを変更するなど、柔軟に遊びを展開していくことで、子どもたちが楽しく遊べるように工夫しましょう。

また、イベント開催中は場を盛り上げるためのBGMを流すことも効果的です。

(いろんな外遊びメニューP17～参照)

- ◆ 各遊びを参加者に分かりやすくするために、各コーナーに目印や看板を作成すると良いでしょう。